

## 2. 調査概要

### 2.1. アンケート調査の詳細

調査は、2021年6月27日から7月4日まで行った。対象者は、「行動経済学」と「情報経済論」を受講する東北学院大学経済学部生であり、manabaのコースニュースを通じて、これらの授業の登録者に回答の依頼をかけた。ここで、回答は任意である。また、片方の講義で回答した場合、二度回答する必要のないことを告知している。有効回答数は、293名であった。本調査は、新型コロナ・ワクチンの接種を強いるためのものではなく、ワクチン賛成派・反対派両方の意見を尊重して作成している。具体的には、回答終了画面で、「アンケート調査後も科学的に信頼できる情報を入手することを心掛け、新型コロナ・ワクチンの接種について、後悔しない選択をしましょう」というメッセージを表示した。

本研究では、事前にニュースの正誤判断をさせることで情報共有判断にどのような効果を与えるかを把握するために、ランダム化比較試験(Randomized Controlled Trial: 以下RCTと呼ぶ)形式でアンケート調査を行った。一般社団法人日本理学療法学会連合[2021]によると、RCTの定義は「ある試験的操作(介入・治療など)を行うこと以外は公平になるように、対象の集団(特定の疾患患者など)を無作為に複数の群(介入群と対照群や、通常+新治療を行う群と通常の治療のみの群など)に分け、その試験的操作の影響・効果を測定し、明らかにするための比較研究」である。具体的に、この調査では、回答者の学籍番号が偶数か奇数かによって、情報共有判断の質問と正誤判断の質問の順番が前後するようにアンケートを作成することで、二つのグループに分けた。偶数グループでは、正誤判断の質問を提示した後に情報共有判断の質問を提示した(「正誤グループ」と呼ぶ)。奇数グループでは、情報共有判断の質問を提示した後に正誤判断の質問を提示した(「共有グループ」と呼ぶ)。正誤グループは145名、共有グループは148名であった。学籍番号を使用してグループ分けを行なった理由として、入学時点で学校側から決められ、自分の意思が介在しない番号であるため、ランダムなグループ分けを実現できると考えたからである。実際に、2.2節で性別・年齢・家族構成がグループ間で統計的に有意に異なることを確認しており、ランダムなグループ分けを実現できていると考えている。3.3節では、対象群を共有グループ、介入群を正誤グループとし先に正誤判断させることの効果を検証した。

調査では、新型コロナ・ワクチンの接種を受けたいかどうかについて、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の四択から答えてもらっている。ここから、「そう思う」「ややそう思う」と回答した人々をワクチン賛成派、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と回答した人々をワクチン反対派と定義した。ワクチン賛成派は199名であり、正誤グループでは96名、共有グループでは103名であった。ワクチン反対派は94名であり、正誤グループでは49名、共有グループでは45名であった。

ニュースの見出しには、真のニュースの見出しを四つ、偽のニュースの見出しを四つの計八つを用意し、提示した。特に偽のニュースは、ニュースサイト『BuzzFeed』のファクト

チェックのページを参照して作成した[2021]。使用したニュースの見出しは、【表1】の通りである。内訳として、ワクチン賛成派寄りのニュースの見出しを真偽二つずつ、反対派寄りのニュースの見出しを真偽二つずつ用意している。

正誤判断の質問文は、「下記には、新型コロナウイルス感染症に関する一連のニュースの見出しが提示されています。あなたの知る限り、下記の見出しは正しい情報だと思いますか」である。ニュースの見出しを見て「正しいと思う」「正しくないと思う」かを回答してもらった。情報共有判断の質問文は、「下記には、新型コロナウイルス感染症に関する一連のニュースの見出しが提示されています。SNS で以下のニュースが流れてきたとき、あなたはこの情報を家族や友人に共有したいと思いますか」であり、ニュースを家族や友人に「共有する」「共有しない」かを回答してもらった。

本稿では、以下の三つの問いを検証する。

問Ⅰ ニュースの正誤判断を正確にできているのか

問Ⅱ 誤情報と分かっても周囲と共有しようと思う人がどれくらい存在するのか

問Ⅲ 誤情報の共有を抑制することは可能であるか

ニュースの見出しには、誰でも正確に正誤判断できるようなものから、新型コロナ・ワクチンに関する詳細な知識がないと判断できないものまで含まれている。そこで、Ⅰについては、簡単に正誤判断できるものに関しては正しく判断ができているかを、正誤判断が難しいものはどのくらいの正答率であるのかを把握する。また、誤情報を正しく判断できているかを確認するため、真のニュースと偽のニュースに分けて正答率を把握する。

次に、Ⅱについては、間違っていると自分で判断できた情報を、周囲の人々に共有しようと思う人は少数であると考え、正答率の高いニュースほど共有率が高いと予想する（【表3】よりその傾向が確認できる）。また、真のニュースと偽のニュースに分けて、正答率と共有率の関係を分析する。

最後に、Ⅲについては、先に正誤判断を行わせることで、ニュースの正確さを意識させることができると考える。したがって、共有グループよりも正誤グループの方で偽のニュースの共有率は低くなると予想する。また、新型コロナ・ワクチンの賛成派か反対派かによって介入効果に違いがあるかどうかとも検証する。

## 2.2 バランス・チェック

ここでは、正誤グループを1、共有グループを0としてXに当てはめ、性別・年齢・家族構成などの属性情報をYに当てはめて回帰分析を行った。その結果、これらの属性情報についてグループ間で統計的に有意な差は見られないことが分かった。つまり、正誤グループと共有グループは統計的に類似した人たちであると判断できる【表2】。